

時事直言ホームページ : <http://chokugen.com>

FAX : 03-3955-2122



## 民主主義と自由の賞味期限

オバマ新大統領実現はパックス・アメリカナの終焉を告げるものだ。今日までアメリカの繁栄は民主主義と自由、特に自由市場の拡大にあった。独裁や制約から人類を開放することは政治・経済的チャンス拡大となり、アメリカが主導して来た自由主義陣営と国際基軸通貨であるドルの市場支配力強化に繋がった。ところがいまやアメリカを支え、アメリカのバックボーンとも言える民主主義と自由がアメリカの勢力を阻害し始めたのである。

オバマ新大統領は従来とまったく異なる勢力から選ばれた。勇気とパイオニア精神でアメリカを拡大してきた指導的勢力からではなく、指導者から権利を与えられ、福祉を権利として求めて止まない層によって選ばれた。2000万人の不法入国者が生んだ子供に自動的にアメリカの市民権が得られ、一親等の両親はこれまた自動的にアメリカ市民になる。与えられる権利を求める国民の数がもう直ぐ人口の50%を超える。「与えられる者にパイオニア精神も勇気も不要である」。アメリカにDependency(国頼り)で Coward(意気地ない)の精神が支配的になってきた。何故パイオニア精神のアメリカが終焉を迎えることになったのだろうか。それは皮肉にもアメリカが国是とする「民主主義」のためである。

高度経済成長の望みがなくなり、またドルの世界経済における影響力が低下する時代になった。こうした時アメリカの民主主義の御加護で人口の50%になんなんとする Dependency がアメリカの主権者になったのである。

アメリカの勇気を誇りとしてパイオニア精神で民主主義を世界に普及してきたアメリカは今皮肉にも民主主義が原因で世界の指導者としての座を降りようとしている。

## 目覚めよ日本！

ローマ、ブリテン、そして今アメリカの時代が終わろうとしている。今後アメリカがかつての世界の繁栄を取り戻すことは無いだろう。ろうそくが消える前に炎が上がるようにアメリカはイスラエルのために最後の中東戦争をして250年の歴史を閉じることになるだろう。

競争の原理と市場主義にどうしても馴染めない日本。それにもかかわらず、国民が世界一富裕で常に貿易黒字で高水準の外貨準備を持ち、世界最大の債権国(世界中の国に資金供与と貸付を行っている)である日本。政治、経済戦略に疎い日本の Status(今日の姿)が、アメリカの衰退と共に世界の注目を集めることになるだろう。ニッケイが9000円台を回復した時、「まだ7000円台がありますから慌てて買わないように」述べた。今や目先より歴史的宿命として日本を見直す時ではなからうか。

日本の底力、日本経済の安全(安定)性が市場の関心になるのは目前であろう。

※増田俊男のプライベート・コンサルティング【面談・電話・FAX・e-mail】

お問い合わせは：増田俊男事務所 秘書 宮岡 (03-3591-8111) まで

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、  
事前に増田俊男事務所 (Tel.03-3591-8111) までお知らせ下さい。